

シンポジウム

テーマ：運動器理学療法教育と卒後の目標

座長：日高正巳 準備委員長（兵庫医療大学）

シンポジスト：

- 1) 「臨床実習の目標」 藤原愛作 先生（佐藤第一病院）
- 2) 「臨床教育（専門・認定前）の目標」 小松泰喜 先生（東京工科大学）
- 3) 「臨床教育（認定・専門）の目標」 竹井 仁 先生（首都大学東京大学院）

理学療法士の生涯学習の時期を大きく区分すると3つに分けられる。1つ目は卒前教育期であり、2つ目は新人から中堅の時期であり、3つ目は、中堅から熟達にいたる時期である。

「理学療法教育と卒後の目標」をテーマとして考えた時、卒前教育では、国家資格を取得し有資格者になるための学習が主であり、「卒業時の臨床能力」が1つのキーとなる。そして、新人から中堅の時期は、臨床経験を積み重ねることはもちろんのこと、認定理学療法士や専門理学療法士といった「認定資格の取得を目指した自己研鑽」がキーとなる。さらに、認定を受けた後の目標としては「社会での認知」「高い臨床スキルを用いた社会貢献」がキーになるものとする。

そこで、今回のシンポジウムでは、運動器理学療法の領域を軸として、各時期における目標について3名のシンポジストからの提言を頂き、目標設定を考える時に、どのような視点を持ち、クリニカル・ラダーを検討していくことが必要なのかについて議論を深めていきたい。

佐藤第一病院の藤原先生からは、臨床経験を重視した診療参加型臨床実習において、資格・経験の有無の点を含めて、実習生に「どこまで経験させられるのか」「どこからは経験させられないのか」という臨床実習の目標について、提言を頂く予定にしている。

東京工科大学の小松先生からは、新人教育プログラムを含めて、認定理学療法士・専門理学療法士の認定を受ける前においても「これだけはできないとダメ」「ここまでは高めていきたい」「有資格者だからここまではしよう」というように、卒前では取り組めなかったが臨床を展開するためには必要だろうという目標について、提言を頂く予定にしている。

首都大学東京大学院の竹井先生からは、認定理学療法士・専門理学療法士を取得したから終わりではなく、取得したからこそ取り組まなければならない「対象者に対する貢献」、そして、更なる成長という観点から、「理学療法士たるもの、ここまで目指そう！」というような生涯学習の根幹的な目標について、提言を頂く予定にしている。

3名の提言を受け、日本理学療法教育学会の会員が、日々の生涯学習の目標について関心を深め、理学療法士としての日々成長の石畳を考える機会になれば幸いである。